

2020年9月17日

開放的な貿易の価値は2025年には10兆米ドルに

G20（金融・世界経済に関する首脳会合）参加国に提出された新たなレポートで、高い関税と貿易規制は世界のGDPを年あたり10兆米ドル下押しし新型コロナウイルス危機からの経済回復を遅らせるとの見通しが示されました。

ロンドン、2020年9月17日- G20参加国に本日提出されたレポートによると、現在の世界の商品貿易を阻害している関税や非関税障壁を各国政府が撤回するか縮小するかしなければ、世界経済は2025年には最大10兆米ドルを喪失する可能性があります。

このレポートは「開放的な貿易の価値は10兆米ドル」とのタイトルで、ボストンコンサルティンググループ（BCG）とHSBCの専門家チームがまとめたものです。G20参加国に政策提言するグローバル・ビジネスリーダーの集まりであるビジネス20（B20）向けに作成されたレポートとして、開放的な貿易と保護主義とを恩恵とコストの観点から定量的に比較検討する内容になっています。

調査チームは、貿易の流れが経済成長に与える影響を分析する確立されたモデルを使用し、G20参加国間の商品貿易の流れについて2つのシナリオを想定し両者を比較しました。一つは最大限に開放された規則に準拠する貿易、もう一方はあり得る限りで最大の貿易規制が実施されるケースで、後者では関税率の上昇や米中間の貿易摩擦に起因する関税の継続、貿易振興のための新しい対策がほぼ実施されないことなどが想定されています。

2つのシナリオから生じる世界経済への影響は、1年目はほぼ同じですが、その後には違いが表れます。保護主義シナリオでは世界貿易の金額は横ばいになり、GDPも同様に推移します。一方の開放的貿易シナリオでは、貿易額は年率2.0～2.6%で増加し、それを受けてGDPは毎年1.8～2.3%成長します。調査では商品貿易だけを対象にしていますが、サービス財の貿易を加味した場合には貿易規制の緩和で創出される経済的価値は一段と大きくなると考えられます。

BCG のマネージング・ディレクター&シニア・パートナーのスカンド・ラマチャンドラン (Sukand Ramachandran) は「新型コロナウイルスの感染拡大への対応にすでに追われている世界経済に関して、我々の分析は開放的貿易が全ての国々ならびに世界全体に利益をもたらすことを明らかにした」と述べ、さらに「開放的貿易から生まれる追加的な経済成長が世界全体の雇用につながる」との見解を示しています。

WTO (世界貿易機関) は、2009 年から現在まで続いている輸入制限措置によって G20 参加国の輸入全体の 10.3%、金額換算で 1 兆 6,000 億米ドルの輸入が影響を受けているとしています。

G20 としての対応への道筋

今回のレポートでは、世界経済の健全性を最大化するために世界の指導者たちが今後 5 年間およびそれ以降に取り組んでいくべき 5 つのステップを以下のように提示しています:

1. **国際機関の機能を強化し、企業が世界で直面する新たな課題を WTO 等の機関が遅滞なく把握する。**
2. **貿易ルールを見直し、より優れ、より法的強制力の強いルールを整えて保護主義を後退させ、市場開放を支援し、世界的に公平な貿易環境を確保する。**
3. **テクノロジーを通じて電子商取引とデジタル貿易が促進される環境を確保するために、インフラ、技術、世界全体で通用する法的枠組み、デジタル貿易規格を開発する。**
4. **サービス財や無形財の輸出を振興するために、サービス貿易の規制を削減し、知的財産に係る規制への共通理解を促進し、データローカライゼーションに共通基準を適用し、電子送信物への関税を廃止する。**
5. **貿易が社会に与える好影響を促進するために、貿易ルールと投資ルールを整備して革新的取り組みや包括的成長を刺激し、環境への悪影響を最小化する技術を進歩させる。**

HSBC のグローバル・トレード&レシーバブル・ファイナンス部門統括責任者を務めるナタリー・ブライス (Natalie Blyth) は「B20 の貿易・投資作業部会は G20 各国に向けた大胆かつ積極的な統一的政策提言をまとめ、その中で包括的で持続可能な経済成長を目指す明確な道筋を示唆している」と述べ、さらに「コロナ禍後の経済回復において貿易が本来の役割を果たすことは極めて重要であり、より開放的な貿易政策をもって世

界経済を迅速に回復させることができればその価値は数兆米ドルに相当する」としていただきます。

本レポートのコピーは[こちら](#)からダウンロードできます。

注記：

ナタリー・ブライス (Natalie Blyth)：業界をリードする HSBC の貿易金融事業のグローバル統括責任者。貿易政策に関する提言を積極的に行い、B20 の貿易・投資作業部会の共同副議長を務める。

スカンド・ラマチャンドラン (Sukand Ramachandran)：BCG ロンドン・オフィスの マネージング・ディレクター&シニア・パートナー。BCG の金融機関慣行部門の中核メンバーと貿易金融に関する世界情報の統括責任者を務める。

分析方法

貿易政策が経済成長に与える影響の計測にあたり、我々は G20 参加国の商品貿易の流れを推計する基準として BCG グローバル・トレード・モデルを使用しています。このモデルに使用される数式は一貫して実際の貿易の推移と経済成長率に連動するものです。5 年の期間設定は、徐々に進化する性質を有する貿易の変化が認識される時間を反映させたものです。貿易の進化は、時間の経過とともに高度化し初期設定の方向に極端に傾いていく傾向にあります。

そして貿易政策と貿易金額との間の歴史的な関係と現在確認されている相関に基づいて、我々は、重複を避けるために輸出に限定する形式で商品価値での貿易額をそれぞれのシナリオに沿って予測しました。また G20 参加各国と G20 参加国全体の GDP もそれぞれのシナリオに沿って予測しています。その上で 2 つのシナリオが GDP に及ぼす影響を、G20 参加各国における貿易と GDP の歴史的な関係に基づいて推計しました。

ボストン コンサルティング グループ(BCG)

BCG は、ビジネスや社会のリーダーとともに戦略課題の解決や成長機会の実現に取り組んでいます。BCG は 1963 年に戦略コンサルティングのパイオニアとして創設されました。今日、BCG の支援領域は、変革の推進、組織力の向上、競争優位性構築、収益改善をはじめとしてクライアントのトランスフォーメーション全般に広がっています。

BCG のグローバルで多様性に富むチームは、産業や経営トピックに関する深い専門知識と企業変革を促進する洞察を有します。これらに加え、テクノロジー、デジタルベンチャー、パーパスなどの各領域の専門組織も活用し、クライアントの経営課題に対しソリューションを提供します。経営トップから現場に至るまで、BCG ならではの協働を通じてクライアント組織に大きなインパクトを生み出しています。

日本では、1966年に世界第2の拠点として東京に、2003年に名古屋、2020年には大阪、京都にオフィスを設立しました。

HSBC ホールディングス plc

HSBC グループの持株会社である HSBC ホールディングス plc は英国・ロンドンに本部を置いています。HSBC グループは、ヨーロッパ、アジア・太平洋、南北アメリカ、中東、北アフリカにまたがる 64 の国と地域でお客さまにサービスを提供し、2 兆 9,230 億米ドル（2020 年 6 月末現在）の総資産を持つ、世界有数の金融グループです。

以上